

改めてウイルスという生物

ウイルスは太古の地球に誕生した原始の生命体で、生命体としては極めて脆弱な形態なのに、未だに絶滅していない。ダーウインの進化論に従って、生き残っている理由が見つけると、宿主の抗体機能^{システム}が記憶を更新するより早く変異する事らしい。これは、ウイルスが意思を持って行っているのではなく、^{ただ}只存続に適した変異をしたものが生き続けてきただけのことである。2020年に爆発的な蔓延が始まったコロナウイルスは、2022年にはオミクロン株と呼ぶ変異株が蔓延している。これからも変異を繰り返すことだろう。

ワクチンによる感染からの防御

ジェンナーが発見したワクチンは強力である。繁殖力や毒性を弱めたウイルスを筋肉に注入し、抗体機能^{システム}の記憶^{メモリー}の更新を助けようというものである。ウイルスの侵入に先駆けてこれを行ない、抗体機能^{システム}に備えを整えておくと言う画期的な発明である。今回のコロナウイルスでは化学的に合成した物質をワクチンと呼んで接種してきた。しかし、ジェンナーのワクチンとは異なり、生体が持つ抗体機能^{システム}と関わり無く働く。

関わり無く働いただけなら何も心配は無いが、抗体機能^{システム}に悪影響があると危惧する専門家も居る。抗体機能^{システム}がコロナウイルス以外の感染症に働かなくなったら恐ろしいが、マスコミはこの様な心配について、全く報道していない。

ワクチン以外の防御法

生物由来のワクチンを接種すると、一週間ほどで抗体機能^{システム}の記憶^{メモリー}が更新される。実際のウイルスに侵入された場合であっても同程度の期間で抗体機能^{システム}の記憶^{メモリー}が更新される筈である。更に、既存の抗体が多少の防護力を持っていると云う期待も有る。

改めて感染症からの防御法

人類は優れた抗体システムを有するので、これで感染源からの防御が行われている。但し、既知の感染源に対応する抗体が造られるので、変容した感染源への対応力は弱い。時間に猶予があればシステムが対応し、適切な抗体が作れるようになる。半殺しにした感染源を注射して、抗体システム^{データベース}の情報源を更新するのがワクチンである。ジェンナー以降、この手法が定着したが、ワクチンの製造にも抗体システム^{メモリー}の記憶の更新にも時間の猶予が必要である。新型コロナのワクチンは今迄とは異なる発想で作られている。新型コロナウイルスに直接対応する化学薬品で、抗体システム^{メモリー}の記憶を助けるものではない。抗体システムに悪い影響がなければ善いが、其れに関する報道は一切ない。

マスクの効用

マスクは繊維の隙間を通過させることで、空気中の感染源を捕獲するものである。完全な捕獲は期待できないものの、汚染量を激減さ

せる効果はある。これによって抗体システムの^{メモリー}記憶を更新するための時間を稼げるかも知れない。原始的ではあるものの、活用するに越したことはない。ただ、街で頻繁に観掛けるのは、全く効果の期待できないマスクの着用である。マスクを着けると息が苦しい為にやっているのだろうが、鼻を丸出しにした人さえいる。マスクは鼻の両脇と、頬に隙間ができ易い。これを防ぎながら呼吸を楽にするには、百均でも入手可能なインナーフレームを利用すると良い。小職は、同じ百均で入手できる花粉症用眼鏡も併用している。ウイルスは口と鼻から侵入するものが圧倒的であるものの、目の粘膜も進入路のひとつである。コロナ対策として行っているのだが、お陰で花粉症の反応も弱くなっている。

結論

しつこく繰り返すが、ウイルスは太古の地球に誕生した原始の生命体で、生命体としては極めて脆弱な形態なのに、未だに絶滅していない。これからも絶滅することはないだろうが、その繁殖力と有害性と蔓延力は必ず変動する。2020年の蔓延開始時は、これら三者が特に強かったので世界中で大騒ぎになった。しかし、どのような姿に変容するのかをウイルスが意図を持って決めている訳ではない。早晚波の繁殖力と雄大性と蔓延量に変容するに違いない。マスクと空^{リモート}気清浄機と通信会議で、当面のコロナ禍を乗り切り、恐ろしさのなくなったウイルスに変容した後でも、今回の新しい生活習慣を続けると好いと考える。

感染症からの防御

ウイルスについて更なる考察

2020年から2020年、新型コロナウイルスが変異を繰り返しながら、世界中に蔓延した。変異株に新しい名前を次々に付け、マスコミは騒がしく、夫々の比較を報道している。騒がしさとは裏腹に、多くの人は耳^{たこ}舐^{きまま}で、気儘に振舞っている。

20世紀初頭、第一次世界大戦時のスペイン風邪の前例を見ると、大戦の継続を不可能にするほどの蔓延も、時を置いて収束している。その後、数回目のウイルス大蔓延である。

これからも、人類とウイルスの戦いは続いて行くだろう。どう対処すれば善いのか。

石井未来館館長 石井峻

<http://ishii-miraikan.com>